

決裁区分	部長	課長	課長補佐	担当技幹	起案	分類	0・2・4
丙	谷屋	諸星	志村	山口	志村	起案	23・10・24
						決裁	23・10・25
						施行	・

秦野市公共施設再配置計画推進会議開催結果

会議名	<input type="checkbox"/> 平成 年度 第 回 本部会		
	<input type="checkbox"/> 平成 年度 第 回 プロジェクトチーム		
	<input checked="" type="checkbox"/> 平成 23 年度 第 1 回 「ヒト・モノ・カネ」調整 ワーキンググループ		
開催日時	平成 23 年 10 月 24 日 (月) 午後 1 時 30 分 ~ 午後 2 時 20 分		
開催場所	議会第 4 会議室		
出席者	公共施設再配置推進課長(グループリーダー)	財政課公会計改革担当主幹	企画課課長補佐(企画政策担当)
	行政経営課主事補(行政経営担当)	人事課課長補佐(人材育成担当)	財産管理課課長補佐(財産管理担当)
	教育総務課課長補佐(庶務担当)	保育課課長補佐(保育子ども園担当)	生涯学習課課長補佐(生涯学習担当)
	事務局	公共施設再配置推進課課長補佐(公共施設再配置推進担当)	
議 題	1 公共施設再配置基金(仮称)について		
	2 その他		
配付資料	資料 1 秦野市公共施設再配置計画推進体制体系図		
	資料 2 公共施設再配置基金(仮称)の基本的考え方について		
会 議 結 果			
<p>① 低・未利用地の賃貸や売却益は、この基金の原資となるのか。 ⇒ 再配置計画に基づくものは原資となる。将来の財政状況を考えてみると、目標値以上に床面積を削減する必要が出ないとは限らない。しかし、これ以上の削減は、市民サービスの低下を招く。そうならないためにも、長寿命化や予防保全は必須事項となる。しかし、長寿命化には多くのお金も必要となる。なるべく多くのお金を基金に貯めなければ、一元的マネジメントもうまくいかなくなる。</p>			
<p>② うちの課が生んだお金をそっちが取るのかみたいな考えを持つ人もいるが、秦野市のお金である。そういう見方で再配置を考えてほしい。</p>			
<p>③ 他の特定目的の基金もそうだが、財政状況の悪化とともに積立できなくなってしまっている。結局は、財調に行く分がこちらに積み立てられることになったというように、市としての基金の総額は変わらないということになってしまうのではないか。 ⇒ 何が何でも積み立てていくという気持ちを持つ必要があるのでは。秦野市は、昭和 50 年代に建てられた施設が多く、緊急度は低い。それより 10 年前に人口の急増期を迎えている東京に近い自治体では、震度 5 で多くの建物に被害が出た。たまたま人がいなかったから良かったというような事例も聞いている。そういった危機感を共有して、このワーキンググループで基金を考えていきたい。</p>			
<p>④ 基金には、再配置の効果を市民の目に見える形にしておくという効果もある。使える施設が減り、使用料が増えたのは、こういうことにお金を使わなければならないからだということを明らかにしておくことも必要と考えている。</p>			

- ⑤ このワーキンググループは、他のグループと違って具体的な事業が見えにくいですが、今後、どのようなことを考えていくのか。
⇒ まず、基金の話をしていただく。その次には、受益者負担の問題を議論しなければならない。その次には、施設に係る人員をどうするかというような議論もあるだろう。前期の5年間では、このくらいか。また、他のワーキンググループで、もっと広く議論してほしいというような場合、こちらのグループで取り上げるというようなこともあるだろう。
- ⑥ この基金に対する疑問点等について、意見照会をするので、メンバーそれぞれの課の中で議論し、回答してほしい。次回は、主にそれに答える内容としたい。

備考	
----	--